

繊維入り抗磨耗ポリマーセメントモルタル TMモルタルハード

農林水産省「農業水利施設の補修・補強工事に関するマニュアル[開水路補修編](案)(平成25年10月29日施行)」
記載の無機系表面被覆工法および断面修復工法の要求性能適合
厚生労働省令第15号「水道施設の技術的基準を定める省令」適合(試験方法:JWWA Z 108:2012)

TMモルタルハードは、結合材、骨材、繊維を配合したプレミックスパウダー「TMパウダーハード」にアクリル系セメント混和用ポリマーディスペーション「TMポリマー混和材A」を組み合わせた「繊維入り抗磨耗ポリマーセメントモルタル」です。左官工法、吹付工法いずれでも施工が可能で、コンクリートの欠損部修復、表面被覆に適用できます。

特長

- 抗磨耗性、接着性および耐久性に優れ、モルタル仕上がが可能となりました。
- 繊維入りのため、ひび割れに対する抑制効果に優れています。
- 左官工法と吹付工法で施工可能です。同一工事で複数の材料を準備する必要がありません。
- ホルムアルデヒドや環境ホルモン等を含まず、厚生労働省令第15号「水道施設の技術的基準を定める省令」に適合します。

用途

- 農業用水路、水路橋、ファームポンド等の水利構造物
- コンクリート構造物の欠損部の断面修復

製品概要・標準配合

- TMパウダーハード: 20kg/袋
- TMポリマー混和材A: 18kg/缶

標準配合

TMパウダーハード	20kg(1袋)
TMポリマー混和材A	1.4~1.8kg
練混ぜ水	1.4~1.8kg

1m²当りの標準使用量(希釈水量3.2kg/袋の場合)

TMパウダーハード	1,860kg(93袋)
TMポリマー混和材A	149kg
練混ぜ水	149kg

- 1) 練混ぜ水は、水道水またはそれに準じる清水を用いて下さい。
- 2) TMポリマー混和材Aと練混ぜ水を事前に重量比1:1で混合し、希釈水としてお使い下さい。
- 3) 希釈水量は、施工時の気温や施工方法により変動します。したがって、標準配合の範囲内で調整して下さい。
※希釈水量は、気温が低い場合は少なく、高い場合は多くなります。
- 4) 希釈水量3.2kg/袋(TMポリマー混和材A 1.6kg/袋:練混ぜ水1.6kg/袋)により算出した数値です。

▶ 1袋当りの練上がり量 約10.8ℓ(希釈水3.2kg/袋:TMポリマー混和材A1.6kg/袋、練混ぜ水1.6kg/袋の場合)

性能例(20℃)

試験項目	試験結果		試験方法	
	4週間後	0.0		
中性化深さ(mm)	4週間後	0.0	JIS A 1153	
付着強度(N/mm ²)		10mm厚	JSCE-K561	
		20mm厚		
	標準条件	3.2		4.5
	多湿条件	3.2		2.6
	低温条件	3.1		2.8
	水中条件	2.8		3.4
圧縮強度(N/mm ²)	材齢28日	46.0	JSCE-K561	
	長さ変化率(%)	材齢28日	0.03	JIS A 1129
摩耗深さ比	材齢28日	0.86	水砂噴流摩耗試験	
相対弾性係数(%)	306サイクル	96	JIS A 1148 A法	
浸出試験	適合		JWWA Z 108:2012により浸出液を調整し、同規格に定める方法により分析した。	

- 上記データは標準配合時の試験結果です。また、厳密に管理された試験室内にて実施されたデータであって、現場においては異なる数値を示す場合があります。
- 上記データのうち「圧縮強度」は、4×4×16cmの角柱供試体により測定した結果です。φ5×10cmの円柱供試体の場合は、この値よりも小さくなる場合があります。

施工概要

- 1 劣化あるいは脆弱化した部位を、はつりあるいは高圧水で完全に除去し、健全なコンクリート面を露出させて下さい。
- 2 コンクリート面は十分に清掃して、埃や汚れを取り除いて下さい。
- 3 鉄筋が発錆している場合には、防錆処理を施して下さい。
- 4 施工面には「TMポリマーC」の2倍希釈液を塗布して下さい。(標準塗布量150g/m²)
- 5 モルタルを練混ぜる際、過度の練混ぜによる泡の巻き込みすぎに注意して下さい。
- 6 練混ぜ量は、作業体制、環境条件等によって調整し、一度に大量のモルタルを練混ぜないで下さい。
- 7 1層目は下地が隠れる程度とし、密着するように施工して下さい。2層目以降の塗り付けは、追いかけて前層となじむように行ってください。吹付施工の場合は、1層目の吹付け終了後、適度な養生期間をおいて十分に締まったことを確認してから行って下さい。
- 8 最終仕上げは、モルタルが締まった後に、「TMポリマーC」の原液を適量塗布した上で、金ゴテ仕上げを行なって下さい。
- 9 詳細は、施工要領書をご参照下さい。



※TMポリマーCについては、別途カタログをご参照ください。
(TMポリマーCについても、厚生労働省令第15号「水道施設の技術的基準を定める省令」に適合しております。)

ご使用になる前に、必ずご確認ください。

●本カタログに記載される性能例他の事項は代表的な実験値や調査に基づくものであって、「すべての現場諸条件」に当てはまるものではありません。●ご使用になる前に、使用の目的や要求性能、および使用される場合の現場諸条件を考慮して、本製品が適正であるかどうかのご検討をお願いいたします。●特に、現場において実施されることの多い「圧縮強度」、「付着強度」については、試験体作成時の配合や環境温度、成形方法、試験体寸法や形状、その後の養生条件等により下回る数値を示すことがあります。●試験手順については、工事仕様書、発注者仕様書、または関連する指針(案)等をご確認頂き、必要に応じて監督係員と協議して事前に確定しておくようお願いいたします。

使用上の留意事項

- 練混ぜには、TMポリマー混和材Aを用いて下さい。
- TMポリマー混和材Aの希釈には、水道水またはそれに準じる清水を用いて下さい。
- 欠損が大きいなどはく落の恐れがある場合は、鉄筋の設置、アンカー、メッシュの取り付け等のはく落防止対策を行ってください。
- 外気温が5℃以下の場合は、作業を行わないで下さい。やむを得ず施工する場合は、シート等の覆いの他、ヒーター等の保温措置を講じて下さい。
- 施工中および施工後早期に強風、日射、降雨、降雪等の影響を受ける恐れがある場合は、シートで覆う等の養生を行ってください。
- 練混ぜには、アルミニウム製の羽根は絶対に使用しないで下さい。アルミニウム部材が摩耗し、施工後に異常膨張する恐れがあります。
- TMパウダーハードの保管は、雨露等がかからず湿気の少ない場所を選び、パレット等を敷いて床面から離れた状態で、ビニールシート等で覆って下さい。
- TMポリマー混和材Aの保管は、直射日光を避けるとともに、凍結を避けるために5℃以上、変質などによる劣化を防ぐために30℃以下で保管して下さい。
- 廃棄する場合は、硬化後に産業廃棄物として処理業者に廃棄をご依頼下さい。
- 排水等は、水質汚濁防止法等の関連諸法令に従って廃棄して下さい。



- 本製品はカタログに記載されている方法でご使用下さい。
- 本製品はセメントと同様にアルカリ性を示します。使用の際は、眼・鼻・皮膚および衣類に触れぬよう保護具(ゴム手袋、保護めがね、マスク等)を着用の上ご使用下さい。
- 誤って眼に入った場合は、直ちに清水にて十分に洗浄した後速やかに医師の治療を受けて下さい。
- 誤って飲用した場合は、直ちに吐き出して、清水で十分に洗浄した後速やかに医師の診察を受けて下さい。
- 皮膚に付着すると肌荒れを起こすことがありますので、直ちに水洗いして下さい。
- 作業後は手洗い、うがいをして下さい。
- 本製品の取扱いに関して、詳細な内容を必ず安全データシート(SDS)にてご確認ください。

このカタログの記載の諸性能および諸物性は、環境条件や使用条件などによりカタログと異なる結果を生じることがあります。十分にご検討の上、ご使用頂きますようお願い申し上げます。このカタログの記載内容は、予告無しに仕様や取扱いを変更することがありますので、ご了承ください。

 太平洋マテリアル株式会社 <http://www.taiheiyo-m.co.jp>

営業本部 機能性材料営業部

〒114-0014 東京都北区田端6-1-1 田端ASUKAタワー15階 TEL.03-5832-5217

北海道営業部	〒060-0004	北海道札幌市中央区北4条西5-1-3	日本生命北門館ビル	☎ 011-221-5855
東北支店	〒980-0804	宮城県仙台市青葉区大町1-1-1	大同生命仙台青葉ビル	☎ 022-221-4511
東京支社	〒114-0014	東京都北区田端6-1-1	田端ASUKAタワー16階	☎ 03-5832-5240
中部支店	〒453-0801	愛知県名古屋市中村区太閤3-1-18	名古屋KSビル	☎ 052-452-7141
関西支店	〒532-0011	大阪府大阪市淀川区西中島4-3-2	類ビル4階	☎ 06-7668-6001
広島営業部	〒732-0828	広島県広島市南区京橋町1-23	三井生命広島駅前ビル	☎ 082-261-7191
高松営業部	〒760-0050	香川県高松市亀井町7-15	セントラルビル	☎ 087-833-5758
九州支店	〒810-0001	福岡県福岡市中央区天神4-2-31	第2サンビル	☎ 092-781-5331